

宮城マスター新たに5人



1級合格者にカード交付

県の歴史や地理、食材など幅広い分野の知識を問うご当地検定「宮城マスター検定」で、本年度の1級合格者へのカード交付式が1月26日、県庁であった。合格率3・2%の難関を突破した5人が猛勉強を振り返りながら喜びを語った。

村井嘉浩知事と、1級合格者でつくる「いっきゅう会」の佐藤敏悦会長が賞状とカードを手渡した。村井知事は「司法試験より難しいと言われている試験に合格した皆さんを尊敬する。一緒に宮城を深掘りしてほしい」とたたえた。

2度目の挑戦だった日本三景交通（松島町）のバスガイド佐々木仁美さん(37)「浦谷町」は、新型コロナウイルス禍で業務が減る中、改めて宮城を知ろうと勉強を重ねた。「覚えた漢字が夢にも出てきた」と苦笑しつつ、「県外の観光客にもさらに魅力をPRしたい」と声を弾ませた。

本年度で11回目の試験は昨年11月14日にあり、県外の156人が受験した。計50問で1級合格は正答40問以上。今回最も難しかったのは石巻市の「雫羊崎」神社の読みを記述する問題（答・ひつじさき）で、正答率は5・1%。1級合格者は計42人となった。